

金沢学院大学大学院

2026 (令和 8) 年度 入学者選抜試験問題 (Ⅱ期)

2026 年 2 月 21 日 (土) 実施

経営情報学研究科経営情報学専攻
博士前期課程

小論文

注意事項

1. 問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
2. 解答は、解答用紙（提出用）に書きなさい。
3. 問題冊子・解答用紙（提出用）・下書き用紙に受験番号・氏名を記入しなさい。
4. 解答用紙には、選択した問題番号を記入しなさい。
5. 試験終了後、問題冊子・解答用紙（提出用）・下書き用紙を回収します。

受験番号	
氏名	

次の問題 1～4の中から、1つ選んで答えなさい。

問題 1

「失われた 30 年」と言われたように、1990 年代にバブルが崩壊して以降、日本経済は低空飛行を続けた。この日本経済の長期停滞の要因について、需要面（個人消費・設備投資など）と供給面（生産要素及び生産技術（生産性））から論じなさい。

問題 2

日本人の経営学者または経営者の中には、国際的に影響力を持つ理論または経営理念・経営哲学を展開・実践してきた人物がいる。あなたが重要だと考える日本人の経営学者または経営者（故人を含む）を 1 名取り上げ、

1. その人物の代表的な理論または経営理念・経営哲学の核心を簡潔に説明しなさい。
2. そのうえで、なぜそれが国際的に受け入れられたのか（あるいは影響力を持ったのか）について論じなさい。

問題 3

「税効果会計に係る会計基準」（以下、「基準」という。）について、次の設問に答えなさい。

1. 税効果会計の目的を述べたうえで、法人税の会計的性格について説明しなさい。
2. 税効果会計の方法には繰延法と資産負債法の 2 つがあるが、「基準」では資産負債法が採用されている。この資産負債法について、繰延法との差異が分かるように説明しなさい。

問題 4

近年、インボイス制度や電子帳簿保存法への対応をきっかけとして、多くの企業で請求書や領収書の「ペーパーレス化（電子化）」が急速に進んでいる。これまで紙を中心に行われてきた経理業務がデジタルデータ中心に移行することで、企業の業務プロセスはどのように効率化されると考えられるか、具体的な例を挙げて説明しなさい。

また、蓄積された会計データを単なる税務申告のためだけでなく、経営判断や企業価値向上に役立てるためには、どのような活用方法が考えられるか論じなさい。

年度	2026年度
研究科	経営情報学研究科
課程	博士前期課程
専攻・コース等	経営情報学専攻
試験科目	Ⅱ期小論文
実施日（試験日）	2026年2月21日
解答又は解答例及び出題意図	
<p>○出題意図</p> <p>本試験は、経営情報学研究科のアドミッション・ポリシーに基づき、受験者が経営・会計、経済、情報などに関する専門的な知識を有しているか、また、それらの知識を活用して積極的かつ創造的に問題解決を図る能力を備えているかを確認することを目的としている。</p> <p>設問は、受験者が経営・会計、経済、情報などの分野から一分野を選択して論述する形式とすることで、専門知識の習得状況および学問的思考力、問題解決能力を評価できるよう設計されている。具体的な問題としては、「失われた30年」の要因、日本を代表する経営者・経営学者の理念や哲学、税効果会計の目的と方法、ペーパーレス化のインパクトとデータ活用というように、学术界だけでなく実務においても重要だと認識されているテーマを取り上げて問題を作成している。</p> <p>○解答または解答例(採点時の観点)</p> <p>採点時の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設問の趣旨を正確に把握し、論点に的確に応答しているか。 ・ 経営・会計、経済、情報などに関する基礎的な概念や用語を正確に理解し、適切に用いているか。 ・ 論理構成が一貫しており、主張と根拠の関係が明確で、説得力のある記述となっているか。 ・ 知識を活用して積極的かつ創造的に問題解決を図る能力を示すことができているか。 <p>なお、設問の性質上、唯一の正解が存在するわけではないため、内容の正確性に加えて、論理性・一貫性・表現力を含む総合的な観点から評価する。</p>	